

「第 9 回製剤機械技術学会仲井賞若手研究者奨励賞」 受賞者の選考結果について

The 9th NAKAI Young Investigator's Encouragement Award of the Japan
Society of Pharmaceutical Machinery and Engineering

仲井賞選考委員会 委員長 大貫 義則
Yoshinori ONUKI

Chair of Selection Committee of the NAKAI Award

本学会では創立 10 周年を機に、2000 年より「仲井賞」を設定し、製剤機械技術の進歩と発展に貢献した個人又はグループの功績を顕彰しております。2017 年 1 月に本会名誉会長仲井由宣先生がご逝去されました。製剤機械技術学会は仲井先生のお持ちであった本会創設にあたっての理念、目標を継承、発展することを目的とし、新たに「仲井賞若手研究者奨励賞」を設け、基礎研究、応用研究、または技術開発を通じて優れた業績を上げた満 45 歳以下の会員を表彰することにいたしました。

仲井賞選考委員会において、応募内容について、慎重かつ厳正に審査した結果、下記を「第 9 回製剤機械技術学会仲井賞若手研究者奨励賞」受賞者として会長に報告し、理事会にて受賞者が決定いたしました。

記

・ 受 賞 者：植田圭祐(千葉大学)

・ 受賞業績題目：NMR を活用した薬物過飽和溶解現象の分子機構解明

・ 受 賞 理 由：受賞候補者は、「分子製剤学(Molecular Pharmaceutics)」の概念に基づき、NMR を中心とした分光学的手法を基盤として、非晶質固体分散体、薬物ナノ粒子、リポソーム製剤、脂質ナノ粒子製剤、薬物複合体など、多岐にわたる特殊製剤を対象に研究を行ってきた。これらの研究を通じて、有効成分および添加剤の分子状態と、製剤物性や有効性との関連性を明らかにするとともに、特殊製剤の効果を最大化するための製剤設計に関する研究を展開している。さらに、固体 NMR をはじめとする先端的な分光学的技術を用いた物性評価手法の開発にも取り組み、製剤物性評価における NMR 測定の可能性を大きく拡張している。研究成果は、多数の原著論文および学会発表として公表されており、有効かつ効率的な製剤設計の実現や、新規品質評価手法の確立に資するものとして、学術的に高い評価を受けている。

加えて、これまでに多くの受賞歴を有し、国際学会の運営や国際学術誌における Guest Editor を務めるなど、国内外において精力的な研究活動を展開してきた点も高く評価された。以上の点を総合的に判断し、選考委員会は、植田圭祐氏の研究業績が、学術的および産業的の両面において製剤分野の発展に大きく寄与するものであり、第 9 回仲井賞若手研究者奨励賞に相応しいと判断した。

以上